



▲奥赤地区あじさいの郷。看板も地区住民の手づくり

災害に負けじと咲く 奥赤のあじさい

但東町奥赤地区を彩るあじさいの花が見ごろを迎えています。今回は、地域住民が村おこしとして始めたあじさい祭りを挙げてきた方を紹介します

小西 ^{まもる}護さん（63歳）但東町奥赤在住

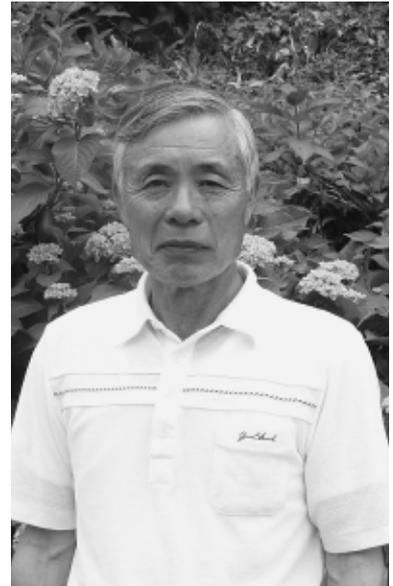
あじさいで地域おこし

但東町奥赤地区では、地域住民同士の心の交流を大切にしながら、地元の素材を利用した地域事業が活発に行われています。

その発端となったのは、平成7年から始めたあじさいの植栽と平成14年の「奥赤村づくり委員会」の設立です。

同地区区長で奥赤村づくり委員会代表の小西 護さんは、「高齢化が進む奥赤を元気で明るい地区にして、訪れた人の記憶に残るような地区にしたいんです」と熱く語ります。

同委員会では、「元気でこころ豊かなむら」をつくることを目指し、あじさいづくりを中心に、緑と清流のあふれる



▲長年、県農業改良普及センターで農業振興に務めてきた小西さん。定年後、自宅前の畑で果樹や野菜などの栽培をする傍ら、仕事で得た知識であじさいづくりに貢献している

る自然環境を生かした地域づくりを展開しています。

あじさいは淡い水色が一般的ですが、奥赤のあじさいは藍に近い色合いで、深みのある青が特徴です。これは、山あいの深い土壌と、一日の寒暖の差が大きいことなどの自然環境によるものといわれています。

奥赤ファンが訪れるあじさい祭り

奥赤では、毎年6月にあじさい祭りを開催し、市内だけでなく京阪神からもたくさん「奥赤ファン」が同地区を訪れ、イベントを通して交流を深めています。

今年も6月18日に開催され、地元特産の野菜の販売が行われ、条件が揃えば山菜も

店頭に並ぶこともあります。見ごろは7月上旬までで自由に見ることができません。

あじさい祭りでは、大勢の方に来てもらえるように、区民が毎月一回、ボランティアによる草刈りやせん定、清掃を行うとともに温かいもてなしをとて大切にしています。同委員会メンバーの梅田能

務さんも、「開催するまでの手入れや準備は大変ですが、訪れた方々の笑顔や温かいことばをいただく」と報われま

命の水「志水柿の名水」

同地区は、平成16年の台風23号で大規模な土砂災害に遭いました。木はなぎ倒され、田畑は土砂で埋まり、そして多くのあじさいも、土石流で流されました。

また、電気・水道も止まってしまいました。同地区内の一角から湧き出る「志水柿の名水」を飲料水にしたり調理の水に利用し、被災直後の生活を過ごしてきました。

この名水は、まさに、住民の生活を支えた命の水となり、以来、この名水を多くのの人に知ってもらおうと、あじさい祭りでは無料配布されています。

災害を乗り越えて

小西さんは「災害復興に向け大勢のボランティアの方々に支えていただきました。大きな災害であじさいが咲く心配でしたが、支えていただいた方々へ感謝の意を込めて開催を決意しました。あじさいだけでなく、区民の人情や温かいもてなしもまた、味付けの一つです。皆さんも、ぜひ奥赤へお越しください」とこれまでの活動を振り返りながら話す小西さん。その目は今後の地区の発展もしっかりと見据えていました。



▲奥赤では一面のあじさいが迎えてくれる